人間国宝 近藤悠三

―鈍 固まり、花 開く―

福井県陶芸館の人間国宝展は、荒川豊蔵、濱田庄司、金重陶陽と行ってきた。その第4弾として近藤悠三の展示を行う。近藤悠三は明治35年に宮内省の官吏であった近藤正平の3男として京都に生まれる。12歳になり京都市陶磁器試験場付属伝習所の轆轤科に入った後、大正6年には同試験場で技手を勤めていた濱田庄司のもとで助手を勤めた。その後、濱田の推薦で、富本憲吉の助手を勤めたのちに、本格的に陶芸家として歩み始めることになる。近藤悠三の作品は初期には様々な手法を模索するが、昭和20年代後半からは独特な染付を確立する。何処か温かみのある、有機的なその染付からは氏の人間性が伺えるようであり、それは金彩を取り入れた50代以降も変わらない。今回の特別展では近藤悠三の作品を通し、その人間性をも知っていただけるような展示としたい。

1.

近藤悠三　年譜

明治 35 年（1902）京都市清水寺下、近藤正平（父）、千鶴（母）の三男として生まれる。本名、雄三
大正　3 年（1914）京都市東山区の安井小学校を卒業後、京都市立陶磁器試験場附属伝習所へ入所
大正　6 年（1917）京都市立陶磁器試験場助手となる。技師として在籍していた、河井寛次郎・濱田庄司の影響を受ける。のちに濱田庄司から釉薬の調合を学ぶ
大正　8 年（1919）同試験場を辞し、富本憲吉の助手となる
大正 11 年（1922）富本憲吉の助手を辞す。関西美術院洋画研究所でデッサン・絵画を学ぶ
大正 13 年（1924）本格的に作陶を始める。津田清楓に絵画や漢詩の指導を受ける
大正 15 年（1926）このころから「悠三」の号をもちいるようになる
昭和 10 年（1935）福島県で相馬焼を研究制作（この後、奈良県、愛知県、イランなどでも研究制作）
昭和 27 年（1952）京都市立美術大学工芸科（陶磁器専攻）助教授となる
昭和 30 年（1955）社団法人日本工芸会の発足にともない会員となる
昭和 31 年（1956）第 3 回日本伝統工芸展に出品。『山水染附花瓶』が日本工芸会賞受賞
昭和 40 年（1965）京都市立美術大学（現・京都市立芸術大学）教授、学長代理を経て学長となる
昭和 45 年（1970）紫綬褒章受章
昭和 46 年（1971）京都市立芸術大学学長を退任。同大学名誉教授となる
昭和 48 年（1973）勲三等瑞宝章受章。京都市文化功労者表彰を受ける
昭和 49 年（1974）京都府美術工芸功労者表彰を受ける
昭和 50 年（1975）佐賀県有田にて染附大皿を完成させる（翌年には色絵金彩大皿を完成）
昭和 52 年（1977）重要無形文化財「染付」保持者の認定を受ける
昭和 55 年（1980）紺綬褒章受章
昭和 57 年（1982）京都市名誉市民の称号を受ける
昭和 60 年（1985）2月25日死去。享年83歳

2.

3.

4.

1. 薊染附花瓶（1967年）、2. 柳白盛飴釉外瑠璃皿（1936年）、3. 柘榴金彩瓢瓶 、4. 竹の子染附面取壷（1968年）
いずれも青森県立美術館所蔵

【関連企画】

■竹中浩氏による講演会
「我が師　近藤悠三」
11月11日(日)14:00～
会場：福井県工業技術センター
　　窯業指導分所２階 会議室
料金：無料
※要予約(お電話にてご予約ください)

■ギャラリートーク
学芸員が展示の解説をします。
11月18日(日)13:30～
(予約不要、入館券が必要です)

■展示期間中1階ロビーにて記録映画上映(無料)
上映作品「呉須三昧ー近藤悠三の世界ー」
【1983年製作、32分】企画/ポーラ伝統文化振興財団、製作/桜映画社

福井県陶芸館
FUKUI PREFECTURAL MUSEUM OF CERAMICS
〒916-0273 福井県丹生郡越前町小曽原120-61
TEL.0778-32-2174(代)
http://www.tougeikan.jp

福井県陶芸館は福井県が設置し、指定管理者の指定を受けたアクティオ株式会社が管理運営を行っています。

【交通のご案内】

バスでのアクセス

●JR 武生駅より 福鉄バス（武生越前海岸線）かれい崎行き
　陶芸村口下車　徒歩10分＜所要時間40分＞片道640円
●福井鉄道 神明駅前より福鉄バス（鯖浦線）かれい崎行き
　陶芸村口下車　徒歩10分＜所要時間40分＞片道 710円
■路線バスに関するお問い合わせ
　福井鉄道株式会社 嶺北営業所（0778-21-0712）

お車の場合

●武生 IC（京都・名古屋方面）より＜所要時間30分＞
●鯖江 IC（金沢方面）より＜所要時間 30分＞
●敦賀 IC（名神・舞若道）より＜所要時間305号線利用約50分＞
■駐車場は越前陶芸村総合駐車場をご利用下さい